

「ほっかいどう学」地方創生塾（鷹栖町）

1年目 第2回

日時

令和2年10月4日（日） 15時～17時

会場

鷹栖地区住民センター

参加者

旭川市内や鷹栖町内の高等学校に通う高校生5名
（町内在住5名）

内容

「鷹栖町高校生プロジェクト」の第2回は、より深くメンバー同士を知るため、「自分らしいエピソード」や「鷹栖に足りないものは？」などのテーマで、互いに紹介しあうことからスタートしました。

その後、鷹栖町出身の札幌の大学生と草野塾長とのトークセッションを実施。塾生にとって、大学生は自分の将来の姿を重ねられる存在であり、またこのプロジェクトが継続した時に塾生自らどう関わり続けられるのか、大学生の経験談を交えた「生の声」を聞く機会となりました。

後半は、「何か企画を考えてみよう」をテーマに、塾長からメンバーの個性・役割を活かした企画立案の進め方を学びました。そして、オープン・スペース・テクノロジーの手法を用いて、塾生のうち3名が、「野外フェス」「外国人との交流」「特産品のトマトジュースレシピコンテスト」という鷹栖町を活性化させるための企画をプレゼン。ほかの塾生やスタッフが3つ企画ごとのグループに分かれ、具現化に向けて、意見交換をしました。

次回はこれらの案の実現に向けて、より具体的な話し合いを進めていくことにしています。



トークセッションの様子



企画プレゼンタイム

アンケートの結果（事前・事後）

事前と事後のアンケートを比較すると、「プロジェクト（活動）を進める上で必要なことの知識・理解」の数値が0.75ポイント上昇した。

塾長と大学生とのトークセッションによるイメージの共有や、オープン・スペース・テクノロジーの手法を用いた企画に関する意見交換、わかりやすい資料があったため、塾生が今後の活動に見通しを持てたものと考えられる。



成果と課題

今回、鷹栖町出身の大学生1名がメンバーに加わりました。第1回開催の3日後に、草野塾長が代表を務めるNPO法人 ezorock の会議に参加したのが縁でした。このプロジェクトをきっかけに、つながりが広がったことも1つの成果だと思います。

企画プレゼンでは、高校生2名、大学生1名から企画案が出されました。高校生の主体性を失わず、これからいかに具現化させていくか、大人たちも真剣に向き合っていきたいと思います。